

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



「ヒライ信」ヒライ流「いろはかるた」
落語歳時記シリーズ

10月の落語「寝床」

ある大家の旦那、義太夫好きで、他人に語りたがるが、あまりにも下手なので、長屋の店子たちは誰も聞きに来ない。そこで、ご馳走をして、ご機嫌をとろうと準備をしてから繁蔵を呼びに行かせたがやはり駄目。

提灯屋は開店祝いの提灯を山のように発注されてんてこ舞い、金物屋は無尽の親もらいの初回だから出席しない訳にはいかず、小間物屋は女房が臨月なため辞退、鳶の頭は成田山へお詣りの約束、豆腐屋は法事に出す生揚げやがんもどきをたくさん発注されて大忙しと全員断られてしまった。ならばと店の使用人たちに聞かせようとするが、全員仮病を使って聴こうとしない。



頭に来た旦那は、長屋は全員店立て(たたき出す事)、店の者は全員クビだと言って不貞寝してしまう。それでは困る長屋の一同、観念して義太夫を聴こうと決意し、一同におだてられ、ご機嫌を直して再び語ることにした旦那は準備にかかる。

やがて始まった旦那の義太夫をよそに、酒が回った長屋の一同、全員居眠りを始めてしまう。我に返って気づいた旦那は激怒するが、何故か丁稚の定吉だけが泣いているのを見て、何処に感動したのかと、語った演目を片っ端から質問してみるが

定吉の返事は「そうじゃありません」「そんなとこじゃない、あそこでござんす」

「あれは、あたしが義太夫を語った床じゃないか」

「あそこがあたしの寝床なんです」

安永4年(1775年)に出版された笑話本・「和漢咄会」の「寝床浄瑠璃」という上方落語の演目で、明治中期に東京へ移されました。桂文楽師の十八番でしたが、他の演目と違って、志ん生師や圓生師等他の噺家さんも演じていました。

■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「プロに学ぶ小噺の話し方」落語の時間 “小噺・オチ・サゲ”

<https://www.youtube.com/watch?v=4txDrSFOW9I>

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も **謎かけ** で、お題は「栗」「目」とかけて

次回は2024年11月4日(文化の日の振替休日 月) 「ワイン」「美術館」とかけて